令和３年度　登米市立登米中学校　自己評価及び学校関係者評価

本年度の重点努力事項	自己評価	成果と課題及び次年度に向けた対応方針（⇒）	学校関係者による評価自己評価の適切性及び所見
○　学校教育目標 校訓「進取」「公明」「強健」 〈学校教育目標〉 「とよまに誇りを持ち，人を思いやり，未来を拓くたくましい生徒の育成」 ①「校歌」　②「挨拶と返事」　③「清掃」	B	○ 学校教育目標の理解（保護者アンケートより） **・８３．９%**が理解していると回答（昨年度より**１０．４%減**） **⇒昨年度と比較し，Ａ評価は若干増えたがＢ評価が減少した。今後は直接説明する以外にも，様々な機会や方法を用いて，生徒・保護者に伝えていく。** ○「学校は，保護者や地域の期待や思いを受け止め，それに答えようと努力している。」（保護者アンケートより） **・７９．６%**が良く努力していると回答（昨年度より**９．９%減**） **⇒三者面談や学年 PTA 懇談会，学校運営協議会などで，保護者や地域の思いや願いを聞き取る機会を持ち，教育活動により反映させていく。**	**学校関係者による評価：Ｂ** ・高評価だと思う。学校だよりに「校訓」とともに，教育目標も載せるなど目にする機会を増やすとよいと思います。 ・開かれた学校経営を目指していることが感じられる。生徒は挨拶も元気で，校内もきれいに清掃されており，とても好感が持てます。 （保護者平均８１．８%）
１主体的に学ぶ意欲・態度の育成と「確かな学力」の向上 ①校内研究を核として授業改善に努め，進んで学ぶ生徒の育成を図り，生徒一人一人が**“分かる喜びが実感できる授業づくり”**を推進する。 ②基本的な生活習慣の確立と落ち着いて規律ある学級づくりに努め，保護者と連携して**家庭学習の習慣化**に努める。 ③各種学力・学習状況調査や市標準学力調査，校内研究アンケート結果を分析・検証し，その成果と課題をもとに具体的な対策を講じて，確かな学力の向上を目指す。	C	①「自分の子どもは授業内容を理解している。」（保護者アンケートより） **・５１．６%**が理解していると回答（昨年度より**７．４%減**） ・１２月実施の生徒アンケートでは，「授業が分かる」と回答した生徒の割合は**８３%**，「授業が楽しい」は**８８%**であった。 **⇒８３%の生徒が授業が分かるという回答をしていることから，生徒は授業時には「分かった」と感じていても，定着（習得）までには至っていないと考えられる。今後も指導法の工夫と授業改善を目指し，「分かる授業づくり」の定着を図る。またタブレットの活用なども進めながら，学習内容の定着を図るための方策をさらに検討していく。** ②「平日１時間以上，家庭で学習している。」（生徒の学習アンケートより） ・６月の結果は**６１%**であったが，１２月の結果は**７４%**と**約１３%増えている。** 「自分の子どもは，平日，平均１時間以上の家庭学習に取り組んでいる。」（保護者アンケートより） **・６６．７%**が取り組んでいる回答（昨年度より**４．８%増**）。 **⇒生徒は家庭学習の習慣が身に付き始めており，保護者も昨年度より家庭学習を行うようになったと感じているようである。今後も保護者と連携しながら，週末課題やタブレットの活用など，家庭学習の習慣化を図る方策について検討していく。** ③昨年度の市標準学力調査の平均正答率は，現３年生は社会科のみ登米市・全国を上回ったが，それ以外はすべて下回った。現２年生は，国・社・数は登米市・全国を上回ったが，理・英は下回った。分析・検証をしっかりと行い，実態を把握した上で次年度に向けて対策を講じていきたい。	**学校関係者による評価：Ｃ** ・授業が楽しいと感じる生徒が多くなったことで，自分から学習し定着につながっていくと前向きに考えます。その楽しい授業を結果に結び付ける工夫が必要だと思います。次年度の改善に期待します。 ・１時間以上家庭学習をしている生徒が７４%もいることに驚きです。保護者の６６．４%も高評価だと思います。 ・子どもたちは，タブレットに問題が送られてくるのを楽しみにしています。 ・テスト等で間違えたところの確認や，高得点をねらえる小テストで確認しながら達成感を持たせることが，次の励みにつながるかと思います。 （保護者平均５９．２%）
２学校行事や生徒会活動・部活動の推進による豊かな心とたくましい体の育成 ①生徒会を中心とした自主的・自律的な生徒会活動を推進するとともに，**生徒参画型で感動や達成感のある学校行事**を行うことで，生徒一人一人の豊かな心をはぐくむ。 ②社会生活の基本である**「挨拶・返事・清掃」**がしっかりとできる生徒を育成するため，各種教育活動において丁寧な指導や支援を行う。また，生徒が誇りを持ち，**大きな声で校歌が歌える**よう働きかけを工夫する。 ③生徒一人一人が**所属感を持ち，居心地のよい学年・学級集団づくり**に努め，いじめや不登校を生まない学校づくりに努める。また，「特別な教科 道徳」の時間等を通して相手を思いやる心を育むとともに，人との関わりや体験活動等を基に，コミュニケーション能力の育成を図る。 ④部活動の自主的・自発的な参加を促し，心身のたくましさや協調性，責任感，連帯感などの育成に努める。	B	①「登米中生は学校行事を通して成長している。」「生徒の成長を目指して学校行事の持ち方など，工夫改善を図っている。」（保護者アンケートより） ・前問は**９２．５%**が良く成長していると回答（昨年度より**０．１%増**） 後問は**８９．３%**が良く改善していると回答（昨年度より**０．８%増**） **⇒今年度もコロナ対策の対応のため，生徒の活動が制限された。その中でも工夫・改善を図り，生徒主体の行事，感動や達成感のある行事を行ってきた。** ②「登米中生は部活動に目標を持って意欲的に取り組んでいる。」「登米中生は部活動を通して成長している。」（保護者アンケートより） ・前問は**８７．１%**が良く取り組んでいると回答（昨年度より**２．４%減**） 後問は**８９．２%**が良く成長していると回答（昨年度より**１．６%増**） **⇒練習試合や大会参加の制限等もある中，できることを確認しながら活動を続け，各部活動とも中総体や新人大会等での活躍が見られた。生徒数が減少する中で，今後の部活動の在り方についても検討していく必要がある。** ③道徳については，今年度も評価について校内研修を行い，教員間の共通理解を図った。校歌については，年度の後半になり，ようやく歌う機会を持てるようになってきた。 **⇒道徳については，引き続き研修を深めていきたい。校歌については，感染症の状況を見ながら歌える機会をできるだけ多く設定していく。**	**学校関係者による評価：Ｂ** ・登米中の生徒は，行事や部活動で急激に成長していると思います。登米の伝統芸能を学べることも素晴らしいと思います。今後も今年度同様，意欲的に取り組んでほしいと思います。 ・コロナ禍においても，できる限りの活動をされている様子で，教員，生徒の努力を感じます。 ・生徒の皆さんは，こちらも気持ちよくなるような素晴らしい挨拶をしてくれます。 （保護者平均８９．５%）

評価の観点　Ａ：十分満足できる，Ｂ：おおむね良好である，Ｃ：やや不十分であり改善が必要である，Ｄ：早急に対策を講じる必要がある　　（裏面もご覧ください）

本年度の重点努力事項	自己評価	課題及び次年度に向けた対応方針	学校関係者による評価自己評価の適切性及び所見
３小・中・高の連携による志教育の推進と進路指導の充実 ①全ての教育活動において「志教育」を意識するとともに，志教育担当教諭を中心に小・中・高や地域との交流を充実させることで，**何事にも「夢・目標・志」を持って取り組む生徒**を育成する。 ②志教育を各教科・領域の枠を超えて横断的に行うことで，高い意識と意欲を持って，自己実現を図ろうとする生徒を育むとともに，一人一人の希望や特性に応じた進路選択の支援体制の充実を図る。	B	①「登米小，登米高と連携した【志教育】に力を入れて取り組んでいることを知っている。」（保護者アンケートより） **・７１．０%**が良く知っていると回答（昨年度より**１４．７%減**）。 **⇒新型コロナウイルスの影響により，連携事業がほとんど行えなかったことが大きく影響しているものと思われる。小中高連絡会でも現在の状況に合わせた連携の在り方を検討し，連携事業の目的や活動の様子についても，HP や学校だより等を活用し保護者に伝えていく。** ②③「登米中生は，進んで挨拶ができる。」「登米中生は，集団生活のルールやマナーをきちんと守っている。」（保護者アンケートより） ・前問は**８３．９%**が良くできていると回答（昨年度より**０．９%減**）。 後問は**８５．０%**が良く守っていると回答（昨年度より**９．３%減**）。 **⇒引き続き，「校歌」「挨拶と返事」「清掃」に力を入れて指導する。また，いじめや不登校対策としては，職員研修を行いながら「行きたくなる学校づくり」を推進する。** ④志教育については，各教科等の年間指導計画にもその関連について明記し，計画的に指導に当たった。進路指導については，コロナ対策を講じながら「職場体験」を実施し，「キャリアセミナー」も開催する予定である。進路相談も生徒や保護者に寄り添いながら対応した。 **⇒引き続き，志教育の推進を図っていきたい。進路指導については，今後も進路選択に向けて計画的に，そして生徒に寄り添った真摯な指導に努めていく。**	**学校関係者による評価：Ｂ** ・コロナがなければ，もっと連携事業ができたと思われ残念です。小・高との連携で，生徒も成長できると思いますので，次年度は積極的に取り組んでほしいです。 ・職場体験は，受け入れてくださる企業がたくさんあり，体験をする生徒も，きちんと真面目に取り組んでいるようなので良いと思います。今後も，連携を続けてもらえればと思います。 ・中学生で自分の夢が明確なことは素晴らしいと思います。高校でそれに向けた努力をして，一歩一歩進んでいってほしいと思います。 ・公民館としても経費負担を含め，志教育に積極的に協力していきたいと思います。 （保護者平均８０．０%）
４積極的な生徒指導と一人一人のニーズに応じた特別支援教育・防災教育の充実 ①**「一人一人を全員で」**を職員の合言葉にして，**生徒と向き合い，心に寄り添う**ことで，**確かな信頼関係に基づいた生徒指導体制**を構築する。また，自己指導力の育成を図る生徒指導の三つの機能**（自己決定の場，自己存在感，共感的人間関係）**を生かした学級づくりに努める。 ②特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制をもとに，特別支援学級及び普通学級における配慮を要する生徒（通級による指導等）への支援を充実させる。 ③防災主任を中心に，各種災害に対して身を守る判断力・行動力を育成するとともに，地域における中学生の役割を考える防災教育の推進に努める。	B	①「自分の子どもは，学校が楽しいと感じている。」（保護者アンケートより） **・７９．５%**がそう感じていると回答（昨年度より**７．２%減**）。 ・６月実施の生徒アンケート(ＱＵ)の「クラスは楽しい」では，**９３%**の生徒が肯定的な回答をした。 **⇒行事等も活用しながら，自己有用感や自己肯定感を高める学級づくりを実践する。** ②「障害の有無に関係なく，ともに学ぶ学校づくりを目指して努力している。」（保護者アンケートより） **・８８．２%**が良く努力していると回答（昨年度より**０．４%減**）。 **⇒通級指導も３年目となり，より個に対応した支援を行っている。来年度も通級指導を行う予定にしており，個に対応した指導を推進していく。** ③「事故を未然に防ぐため，安全に関する指導や環境整備に努力している。」（保護者アンケートより） **・８１．８%**が良く努力していると回答（昨年度より**１２．４%減**）。 **⇒大きな学校事故等が相次いで報道されたことにより，保護者の学校安全に関する関心も高まった。安心して過ごせる学校づくりのため，安全点検や引き渡し訓練，総合防災訓練等の工夫・改善を通して，職員・生徒・保護者の安全意識を高めていく。**	**学校関係者による評価：　Ｂ** ・生徒と向き合った，信頼関係に基づいた生徒指導，ご苦労様です。 ・また大きな災害がくることを想定し，総合防災訓練には地域の方や団体を巻き込んで取り組めるとよいかと思います。生徒の安全を守る訓練，学校内の施設・設備の安全点検，通学路の安全確保をお願いします。 ・学校だよりに，安全点検実施の記事や写真を載せて，アピールするとよいのではないでしょうか。 ・「学校が楽しい」の生徒と保護者の評価の乖離が気になります。 （保護者平均８３．２%）
５地域学校協働活動の推進と地域の歴史・伝統文化を学び・継承する体験活動の充実 ①**コミュニティ・スクール**として，**家庭や地域と連携・協働し，各種教育活動への積極的な参画**を図り，**地域学校協働活動を推進**することで，**地域を愛し，地域に貢献しようとする生徒**を育成する。 ②学校・学年・学級だより，ホームページ等を活用し，情報の発信を行うとともに，保護者・地域住民の声を反映した，**地域とともにある学校づくり**に努める。 ③総合的な学習の時間等を活用し，地域の伝統文化を学び，学習成果を発表する。	A	①「学校は，地域と協力しながら教育活動に取り組んでいる。」（保護者アンケートより） **・９０．３%**が良く取り組んでいると回答（昨年度より**５．９%減**）。 **⇒A 評価は 7.4%増えていた。今後も地域と連携・協働した取組を HP や学校だより等を活用して，すべての保護者に伝えていくよう努める。** ②「生徒の学校での様子や情報を分かりやすく伝えている。」（保護者アンケートより） **・９２．５%**が分かりやすく伝えていると回答（昨年度より**０．１%増**）。 **⇒今年度は各種おたよりだけでなく，HP やスクールメールも活用して，学校の様子や予定の変更等，こまめにお知らせした。A 評価は 5.0%増加した。来年度も継続していく。** ③「地域との連携を大切にした体験活動を通して，ふるさとについてよく学んでいる。」（保護者アンケートより） **・９５．７%**が良く学んでいると回答（昨年度より**５．３%増**）。 **⇒運動会や文化発表会では，表現活動として伝統文化を学ぶことができた。伝統芸能体験会にも積極的に参加した。今後も地域コーディネーターと連携を図り，実践していく。**	**学校関係者による評価：Ａ** ・高評価だと思います。ＨＰの更新がたくさんされていて，学校内の様子がよく見えました。楽しく拝見しています。 ・地域との連携はうまくいっていると思います。大人になっても「楽しかったとよま」を思い出してほしいと思います。 ・運動会でのとよま囃子，文化発表会での表現活動（とよま囃子，岡谷地南部神楽，よさこい）伝統芸能体験等ありがとうございました。 （保護者平均９２．８%）
６教職員の資質能力の向上と主体的な学校経営への参画 ①校内研修や現職教育を通して，教職員一人一人の教科指導力と資質能力の向上を目指した研究授業を実践する。 ②校務分掌を基にした「目標達成度評価」と個々の能力・適性の伸張を図る「資質能力育成評価」を適切に活用し，個々の能力・適性を高め，年齢や経験に応じた校務分掌の役割を果たし，学校教育目標の具現化を目指す。 ③教職員による自己評価と保護者・生徒アンケートを実施し，ＰＤＣＡサイクルに基づく改善を行い，教職員一人一人の学校運営に対する参画意識を高める。	B	①教職員の教科指導力を目指した「協働的な授業づくり」を中心に据え，一人１回以上の研究授業を実践することができた。 ②今年度も職員評価を２回（中間：９月，最終：２月）実施する予定である。 **⇒来年度も，職員評価を実施・活用して，教員一人一人のライフステージに合わせた資質能力の向上を目指す。更に個々の適性に応じた校務分掌を割り当てることで学校教育目標の具現化を目指す。** ③今年度も，教職員と生徒には年２回（６月と１２月）のアンケートを実施し，保護者には１回（１２月）のアンケートを実施して，学校運営における成果と課題を検証した。現在は，その検証を基に来年度の教育計画を作成中である。 **⇒来年度も各アンケートを実施し，ＰＤＣＡサイクルよる改善を行い，教職員一人一人の意識を高めさせながらより良い学校運営を目指す。**	**学校関係者による評価：Ｂ** ・教職員の皆さんの連携が素晴らしく，保護者も相談しやすいと思います。これからも，生徒一人一人に寄り添った指導をお願いします。 ・メールによるアンケートは応えやすくて良かったです。 ・コロナ禍での大変な対応ありがとうございます。 ・未来のとよまのためにも，これからの子どもたちをよろしくお願いします。